

## 平成 28 年度 研修会「地域包括ケアシステムを学ぶ」報告

平成 28 年 4 月 24 日（日）於：西部地域福祉センター  
第 1 回運営委員会（総会）の第 2 部にて研修会を開催



テーマ：『地域包括ケアシステムって何だろう？要支援者の訪問介護  
と通所介護はどう変わる？』～今後の佐倉市の取り組みについて～  
講師：里吉奏子様（佐倉市福祉部高齢者福祉課包括ケア推進班）

最近、テレビや新聞で「地域包括ケアシステム」という言葉を耳にしますが、何だろう？また、要支援者の訪問介護と通所介護が、従来の介護保険事業から、市の事業に変わると聞くと、どう変わるのだろうか。

変更後は、市民やNPOで地域を支え合う仕組みを目指しているらしいが、佐倉市ではどのように取り組まれるのだろうか。等々のお話しをお聞きしました。



佐倉市の介護保険の要支援・要介護認定者は、今後も増加を続け、団塊の世代が 75 歳以上となる平成 37（2025）年度には平成 24 年度の 1.5 倍となる見込みです。2025 年度人口分布（推計）は、生産年齢人口 1.6 人で 1 人の方を支える構成が予想されます。このままでは今の介護給付と保険料のバランスが保てなくなります。

そこで、平成 29 年 4 月から要支援者の訪問介護、通所介護を市町村が取り組む地域支援事業（新しい総合事業によるサービス）に移行することになりました。専門的なサービスには、ふさわしい単価で提供。掃除や洗濯などのサービスやごみ出しなどの多様な担い手による生活支援は単価も低く設定し、費用の効率化も考慮します。

そのサービス提供は、住民主体、NPO、民間企業など多様な主体が考えられます。また、高齢者にも生活支援者としての社会参加をうながします。

このシステム構築に向けては、市町村を核とした支援体制の充実と強化が必要です。佐倉市では、今年度の 4 月から生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）の配置により、住民ニーズの収集とボランティアなど、生活支援の担い手の養成・発掘など地域資源の開発やそのネットワークを作っていきます。

重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で暮らし、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるように、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制（地域包括ケアシステム）の構築を実現していきます。

Q：これからの生産者人口を増やすことも考えるべきではないか。

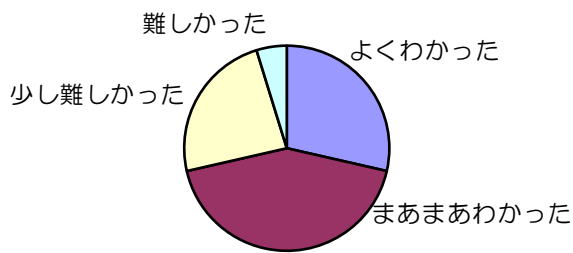
A：他部署で徐々に取組を開始しています。

Q：生活支援コーディネーターと地域包括支援センターとの関係は？

A：今年度の 4 月から生活支援コーディネーターをセンターに新たに設置します。センターのこれまでの業務ではできない地域資源発掘にも関わり、ばらばらの支援を統一していきます。



○今回の研修内容は、いかがでしたか？



○今日の研修会の感想をお聞かせください。(主な意見・感想です。)

- ・話し方は分かりやすくききやすかった。
- ・説明がわかりにくい。
- ・地域包括支援システムの内容が良く理解出来ました。
- ・包括ケアシステムの内容の確認だけではなく、もっとボランティアの関わりについて聞かせて欲しかった。
- ・生活支援コーディネーターの存在を知った。
- ・新しいサービスが始まったようで期待大です。
- ・前から解っていた事なのに後手に回っている。
- ・将来の明るい話題が欲しかった。
- ・元気のある高齢者の活用を（高齢者が周囲に気兼ねなく、やりがいをもって生き生き活動できる配慮）。
- ・生産者人口減の対応として、元気ある高齢者の活用は必要。
- ・近くの単身高齢者（アルツハイマー）の方のお世話をしています。彼女は、受診はしたくない、デイは通いたくないと希望していますが、多少問題行動はありますが見守りや外出などのお誘いを快く受けてくださり、生活しています。
- ・これからの高齢者問題、自分の事と合わせて考えさせられます。
- ・具体的な現実を、未来像を、目を合わせて納得したかった。映像については、一番知らせたい部分を大きく取り上げて、視覚面から脳に入れたかった。
- ・仕事の関係で良く理解して行きたいと思った。
- ・もう少し自分で勉強したいと思う。
- ・今後もこのような研修をお願いします。

○今回の研修内容で、さらに聞いてみたいことがありましたら、記入ください。

- ・包括センター内の生活支援コーディネーターの活動とボランティアの“接点”などが知りたい。
- ・自分の可能な支援の登録方法。
- ・家族が充実した、あるいは負担を軽くして介護できるような介護教育はやっているのか？こうした指導の機会を。
- ・70代の人たちがとても元気で働いています。年齢制限で仕事ができない現実と、受け入れてくれる企業を知りたい（職種含めて）。《今後の研修として》高齢者がイキイキと働いている姿が見られる企業見学。もしくは、実際の労働者のお話。
- ・志津北部が担当センターですが、志津南部が行きやすいのでそこでもいいのかなって思いました。

◎講師の里吉さんに、上記の意見・感想を踏まえて補足していただきました（スペースの関係で1問1答ではありません。）。

今回の研修では、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に構築が急がれる地域包括ケアシステムについて、その概念を現状の把握を中心に説明しました。その上で、新たな制度（生活支援コーディネーターの配置や介護予防・日常生活支援総合事業への移行）について、少々ふれました。新たな制度については、市の裁量で行う点が多々あり、これから決定する事項が多くあります。今後、広報誌やホームページなどを活用し周知いたしますので、ご確認ください。今後、更なる皆さまのご活躍をご期待申し上げます。